

2018年度いのちのセミナー 講師の方々

<p><b>第1回</b> 2018年5月20日(日) <b>大林 宣彦</b> 映画作家</p> <p>「あなたのいのちと私のいのちを考える～あなたと私はひとであるから～」</p>		<p>1938年広島県尾道市生まれ。3歳の時に自宅の納戸で出合った活動写真機で、個人映画の製作を始める。16mmフィルムによる自主製作映画『EMOTION＝伝説の午後・いつか見たドラキュラ』が、画廊・ホール・大学を中心に上映され、高い評価を得る。1977年『HOUSE／ハウス』で商業映画に進出。同年、ブルーリボン新人賞を受賞。故郷で撮影された『転校生』『時をかける少女』『さびしんぼう』は“尾道三部作”と称され親しまれている。長年にわたり精力的に作品を製作し数多くの賞を受賞。最新作『花筐／HANAGATAMI』が2017年12月に公開。2004年春の紫綬褒章受章、2009年秋の旭日小綬章受章。</p>
<p><b>第2回</b> 2018年7月6日(金) <b>関谷 直人</b></p> <p>「いのち輝かせるために今死と向き合おう～キリスト教から見た「いのち」「死」～」</p>		<p>1960年大阪府生まれ。1982年大阪芸術大学音楽学部音楽工学専攻卒業。1988年3月同志社大学大学院神学研究科博士課程(前期)修了。1990年日本キリスト教団霊南坂教会牧師。1992年米国パイン合同メソジスト教会日本語部牧師。1996年同志社大学神学部勤務(研究助手)2006年同志社大学神学部教授。著書に『牧会の羅針盤－メンタルヘルスの視点から』、『ドメスティック・バイオレンス そのとき教会は』など。『信徒の友』において「ヒット曲の神学」を連載。季刊誌『ミニストリー』において「教会指南」を連載。</p>
<p><b>第3回</b> 2018年8月22日(水) <b>山崎 直子</b></p>	<p>(今回参加者募集)</p>	
<p><b>第4回</b> 2018年9月21日(金) <b>垣添 忠生</b> 公益財団法人日本対がん協会会長 国立がんセンター名誉総長</p>		<p>1941年大阪市生まれ。1967年東京大学医学部卒業。都立豊島病院勤務などを経て、1975年国立がんセンター病院泌尿器科に勤務、1992年病院長、2002年総長に就任。2007年に退職し、その後、同センター名誉総長、公益財団法人日本対がん協会会長に就任。著書に『がんと人間』『妻を看取る日』『悲しみの中にいる、あなたへの処方箋』『巡礼日記-亡き妻と歩いた600キロ』など。</p>
<p><b>第5回</b> 2018年10月11日(木) <b>佃 祐世</b> 弁護士 自死遺族</p>		<p>山口県生まれ。1998年に当時司法修習生の夫と結婚。その後、夫は裁判官となり、4人の子宝にも恵まれる。2007年に突然夫を自死で亡くす。夫の遺志を継ぐために司法試験に挑戦し、40歳で合格。2013年から弁護士として活躍している。2016年「はつかいち法律事務所」を設立。自死遺族として、弁護士として、自死遺族支援弁護団のメンバーとして、自死予防や自死遺族支援活動にも精力的に取り組んでいる。著書に『約束の向こうに』。</p>
<p><b>第6回</b> 2018年11月2日(金) <b>小笠原 望</b> 大野内科院長</p>		<p>1951年高知県生まれ。1976年弘前大学医学部卒。1977年高松赤十字病院内科勤務、1997年大野内科(高知県田中村市、現四万十市)副院長となり、2000年より院長。田舎のかかりつけ医としての訪問診療、神経難病やこころのケアに白髪のゲリラ医者として奮闘中。著書に『いのちを支える』『いのちばんざい』『いのちの仕舞い』など。「診療所の窓辺から」をスタイルアサヒに連載中。</p>
<p><b>第7回</b> 2018年11月29日(木) <b>南 直哉</b> 福井県霊泉寺住職 青森県恐山菩提寺院代</p>		<p>1958年生まれ。早稲田大学第一文学部卒業後、大手百貨店勤務を経て、1984年に曹洞宗で出家得度。同年に曹洞宗大本山永平寺に入山し、約20年の修行生活を送る。2003年に同寺を下山。現在、福井県霊泉寺住職、青森県恐山菩提寺院代。著書に『語る禅僧』『なぜこんなに生きにくいのか』『刺さる言葉「恐山あれこれ日記」抄』『悟り』は開けない』『禅僧が教える 心がラクになる生き方』など。</p>
<p><b>第8回</b> 2019年3月17日(日) <b>浜村 淳</b> パーソナリティ 映画評論家</p>		<p>1935年京都市生まれ。同志社大学文学部卒業後、本格的にタレント活動を始める。1974年からMBSラジオの『ありがとう浜村淳です』のパーソナリティを担当。タレントとしては初めて、国立大学(和歌山大学経済学部)の講師となったことで話題になった。その後1994年に追手門学院大学文学部講師として再び教壇に立った。著書に『話上手で心をつかめ』『さてみなさん聞いて下さい 浜村淳ラジオ話芸』『源氏物語 花はむらさき』『京都人も知らない京都のいい話』など。</p>

(敬称略)